



新反

長者物語

下

リ 5  
4724  
24







亦みゆく村を先かゆは女又さうとこばうらに大切の女すし  
 毛もと悪方とらゆか髪とくひかしたれぬ業に捨る全殿  
 善法と表とらうささる細わさ大略と才にお膳も八の紋と  
 ぬるたれとある名の種もその名も成さうとてさたぬと膳も捨る  
 乃子細を才又殿十若と表して十し器之君物よといひく八  
 極の形像さう山式さ乃中書あも毛はむさうとてさ牙六  
 織毛八秋祈と女八宮あてんドして指あつぐゆは我あて二  
 又七寸秋祈と合して二十八宮は正やうは侍と云ふ其是  
 左の侍乃抽袋よといひく仙臺中納言正室六眼うて侍あけ  
 遊去乃とん禱世よといひく

照一眼白後王云 我者豊奥助守

さあさつたぬ乃地成されとて浮世の風と照して毛ゆ

▲古さ侍の抽袋よ曰お友たる御書うらに川本わさるなまの  
 加藤清といひく和は乃侍を徳侍の中は左とれたのぬ八武士

産乃ゆけゆいゆふゆとて徳もさうといひも何進ハ用ホ立ハき  
 若夫あといあさうとと撮又ぬ人の中あても川本ハ何ゆのよそ  
 色わさる黒門よ一足もさうといひとさういひふ本は一あといを  
 さらばとらゆけうら書に振ふ大改名陣の記たの二人も子息を  
 か捕してそのがりいづ何事いそやさるん式アか捕又いふ  
 まるは流川といゆけうらゆらゆら夜二人をさうとてさういふ  
 おひかて流川より然うらむい二人あつとさうとてさういふ  
 さういふ流川といゆけうらゆらゆらゆら場あうてさうのわづらさあ  
 神も人馬つとれと二跡たれさうれたさうと撮もあるたれさうか  
 とさあく春とあさうら文川本が書に書る若さあれさあか  
 出の時書あひゆとさけりお新いげといひとてさういふさう  
 とさあくさあいふよとてさあさうらゆらゆらゆらといひとてさ  
 そとく川本とて川本とて入お耐るの尾よぬ侍とてさういふ  
 さりたれさうといふ文川本は縁くまらるあひゆけりあつた

おもんちとひききするに海軍の用にまゝく頼みけりけり  
そのころのわが国とてたれせんまゝとてさうしひかへ  
しるまゝとてまぢりあくるれりしとて二方ありし  
そは後ひきわけりしとてまゝとてけり

▲古より徳川よりとて越後國長尾為景より出子皇太子  
頼朝とて二人よりして使はるるは高橋氏の所とて相  
たりしより頼朝の所よりかへりしすし使はるる高橋氏  
とていふこととてまゝとてふ十三歳ごろの時分  
まゝとて高橋氏とてとてとてとてとてとてとてとて  
六高橋氏とてとてとてとてとてとてとてとてとて  
舟合戦とてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
いふこととてとてとてとてとてとてとてとてと  
と流浪をたれりしは中つとてとてとてとてとてと  
流浪とてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
流浪とてとてとてとてとてとてとてとてとてと

らんあきらむるなりしを頼朝とてとてとて流浪なるごとく  
たれ流浪なりとてとてとてとてとてとてとてとてと  
なりしなりしなりしは高橋氏とてとてとてとてとて  
ぬふしとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
のかりとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
たのしみとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
もねとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
くはとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
下知はとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
整とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
そのかゝるは高橋氏とてとてとてとてとてとてと  
後乃高橋氏とてとてとてとてとてとてとてとてと  
▲古より徳川よりとて越後國長尾為景より出子皇太子  
のりてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと



水増丹後

首ハ

萩田主馬うら丸

志回左衛門佐

首ハ

西尾仁左衛門付丸

三常越守

首ハ

野中右衛門うら丸

本村長門守

首ハ

安斎長三郎付丸

於本回隼人佐

首ハ

河村新八郎うら丸

昭八掃部助

首ハ

河三左衛門うら丸

判團右衛門

首ハ

八本新左衛門うら丸

おり 養老守

首ハ

昭新傳左衛門うら丸

▲右の傳乃物換は旧武士と云ふものありぬまてとぞ言ふに正なる  
言死と稱ぐひ程乃乃代さるべし正なる武士たる所ありぬまて  
乃物換をてまゐらるべし程乃の武士たる所ありぬまて  
わざらりとわらたるも正なる徳門家康の所ありぬまて  
駿河乃今平養老守人おらとわらぬまて正なる武士たる所ありぬまて  
徳門家康の所ありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

と云ふれはゆひの誤りなりと致すものありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

合身松平源三郎及山家光酒井左衛門村じとあれおらぬまて

人と氏名云ふは山家光酒井左衛門村じとあれおらぬまて

合身松平源三郎及山家光酒井左衛門村じとあれおらぬまて

乃付り信玄と云ふは信玄の所ありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

と云ふれはゆひの誤りなりと致すものありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

乃付り信玄と云ふは信玄の所ありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

と云ふれはゆひの誤りなりと致すものありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

乃付り信玄と云ふは信玄の所ありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

と云ふれはゆひの誤りなりと致すものありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

乃付り信玄と云ふは信玄の所ありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

と云ふれはゆひの誤りなりと致すものありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

乃付り信玄と云ふは信玄の所ありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

と云ふれはゆひの誤りなりと致すものありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

乃付り信玄と云ふは信玄の所ありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

と云ふれはゆひの誤りなりと致すものありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

乃付り信玄と云ふは信玄の所ありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

と云ふれはゆひの誤りなりと致すものありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

乃付り信玄と云ふは信玄の所ありぬまて正なる武士たる所ありぬまて

うそとあまひてあまのたさあけまづのぞかえとあはれなりて決  
はまらばいとあまおほくたあひのねとあまの切なめいと  
▲古く侍の相好よいしく或書お母衣乃るる漢の世に胡國乃  
漢とあひくんとあま漢武といふとあまの死にあらはるる  
はあつて漢武に胡國の國人といふ一母のともなうあつて  
に十九年たふ羊とあひせらるる湯月霧水飲り天上雷冷と  
ゆひのそと武をうしめあらはるる母衣ハ二世とあらはるる  
まのちの太秋のねと切くあはるる乃衣をうしめあらはるる  
あらはるるあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

お母にうめんけりて下字集おいそくお母衣言お子衣  
お母時頭お胎衣防毒也今武士お戰場時お胎衣  
お胎衣お胎衣防毒也お母胎衣お戰場生る二の時也とあら  
張るハお祖乃下字集おいそくお母衣言お子衣  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

母衣代名之圖



武首

お母衣代名之圖

五

お母衣代名之圖





あつらひやくへ本新集のうらうらとあり

▲古くは約の地儀おつてく人教押付しつ風志をら小徳く人の  
おしとてさうく地儀をさびく徳をうへし徳をうらうらとあり  
乃ら徳をら徳いたをひ風つうた押へし徳を徳揚よとあり  
教の一切を所とさうらよわて徳とや成の徳揚と徳成ハ  
徳をさうらうとさうら六十列一の合戦とさうらとさうらたを  
小教するた卒おたうさうら徳と徳と徳とつうら  
又いおひひとく教の徳とらと徳と徳とつうら徳揚  
あつた風志の徳とこのひへし徳と相と徳あひさうらと  
つうら徳とさうら徳に教地儀とつうら徳の徳  
と徳とつうらひらひら車がぬ引のさうらと布やとさうら  
とさうらし徳と徳とつうらとさうらとさうらとつうら  
さうらひらひら徳とさうら時とさうらとさうら徳の徳  
おらとさうらひら武者さうらとさうらとさうらとさうら

つうら若はさうらとさうらとさうらとさうらとさうらと  
不徳の徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と  
西の陣と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と  
あつて徳とさうらとさうらとさうらとさうらとさうらと  
親子ありとさうらとさうらとさうらとさうらとさうらと  
佃の軍歌

武志ハまをささくよ徳とつうらとさうらとさうらとさうらと  
教らとさうらと徳とさうらとさうらとさうらとさうらと  
徳とさうらと徳とさうらとさうらとさうらとさうらと  
是れ徳とさうらとさうらとさうらとさうらとさうらと  
是れ徳とさうらとさうらとさうらとさうらとさうらと  
士卒勢ハまをささくよ徳とつうらとさうらとさうらとさうらと  
徳とさうらと徳とさうらとさうらとさうらとさうらと  
徳とさうらと徳とさうらとさうらとさうらとさうらと  
徳とさうらと徳とさうらとさうらとさうらとさうらと

戦軍ハたわひ争ひのいふ事なるとみるればかごとわくせよ

武田氏権持資

敗軍れてはわらふ終乃辱を射の原がらうとものこと  
くはせり教乃辱をえりくはせりて遊樂いふれもの  
遊り中はくはりの教ハ大恥なることけあつて

赤坂山城守

門をたわぬのうらりり智徳ハよもたつてひらくあつて  
ゆゆやとそとゆゆしてかきくとも月夜ぬるさるらん

武田信玄

りくはくゆゆなるてはくはるるはくはくはくはくはく  
一戦乃日さらしつらゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

柴田勝家

教と信とさるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

教合乃ちりたのたどけはゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
陣よりふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

六角南無

教ありとも先ん人教らるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
て死人教らるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
教方たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

お藤

教らるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

武部  
 武部氏の城はさかき二重勝す一塔ねほはのりたを  
 ら初も二のありてはあてせぬ大橋はとらうら  
 城責乃城あえて又取りりてまわは切をたのまひ

小倉三河守

しりりて空くわらひたさうと城へはひきく  
 打ちのそとるの中はひらりて是乃とそたは

宮部法中

堺目の城はさかき二重勝す一塔ねほはのりたを  
 さらのそとるの中はひらりて是乃とそたは

蒲生源左衛門

さらのそとるの中はひらりて是乃とそたは  
 されは居て後へともをとりけりわらふははさうら  
 敵わひの及らふけり念所入もらららみくはり

史回九郎右衛門

志のひ入城はさかき二重勝す一塔ねほはのりたを  
 多て持て死乃種死あまらふつせわりの何討は  
 地ふゆりすの師りたはのあらふそれをもとせ

相田万珠

軍兵乃つぬまふりて入の自れでうれそあ  
 又教へるりとするはつてはひりそんてあてせ

実康公

伏るるは種死あて死て金うららるるあてのけひと  
 人殺そふさ死切者ともらるる足湯みくそて兵よ

稲葉伊与守

海そふまふとらうらるる海をそあやのみらひのふ別とせ  
 栗屋

栗屋

頭殺ともらるるあつるるあつるるあつるるあつるる

松林

意本抄

ひらきあけお敷くうらうとてとびりぬるれぬとて  
敷おけるひらきとけぬはとて神くは  
とひくよま先にうけおけるもみこもてうらうら  
此回を案す

織田信忠

加茂おのり

大軍とけおらうとて此様して引出せしめし  
是様おをらう敷とわひらひつれぬとて中  
迎ハ進おけおけらうとて此様おをらう  
み敷のりぬひまのらうとてあれらのおあ  
らうと引け人敷とてあらうとておあ

作中書六

本下他那

上松徳信

松林おのり

築田勝茂

秋環とてうらうとて  
敷賣乃一まん乃の  
とて敷乃下知を  
あめぬ乃人敷と  
り人敷らぬとみ  
後其の志の  
後其の志の  
あんく人敷と押  
そらくしたとて

多んくはわをたてて今もまてにたのびとけ  
持のたておなりのたゆまらうるけのせんわくせま  
教壇のまわりと様々たれはたぬとあつたこと  
三松云

九のりたてまわりのゆかおれはもあらうとて  
ひらぬらたのたてまわりのたひんたうたひとせ  
徳人の目おれはまわりのたひんたうたひとせ  
加茂遠はち

えんをたてたてまわりのたひんたうたひとせ  
えんをたてたてまわりのたひんたうたひとせ  
野下伊予守

虎守てたてまわりのたひんたうたひとせ  
野下伊予守  
おひたのたてまわりのたひんたうたひとせ

はねくのたてまわりのたひんたうたひとせ  
鼻とくたてまわりのたひんたうたひとせ  
たひんたうたひとせ

つげ今礼をたてたてまわりのたひんたうたひとせ  
秀吉云  
山とあつたたてまわりのたひんたうたひとせ

川中とあつたたてまわりのたひんたうたひとせ  
越後の地坊主西方院  
佐々木云

うら切とするたてまわりのたひんたうたひとせ  
合戦や地味やのたひんたうたひとせ  
たおやあつたたてまわりのたひんたうたひとせ

秀吉云 越後上野原 野下伊予守 野下伊予守

徳もいぬさかたあてあてと徳ありならと村田家のよ  
杉山屋軍田也

嫁あやわしく歸去と居るとつたわやとと徳の徳は  
徳の月をたれとよつとわやとひいからあやぬとよ

宗ト

くられ事人の子たつたの言葉のうらひとあひを  
伏せらぬ猶よゆくと人あやせぬ親の死目あをひ

馬路

そらそのあやとゆら物もそそよよあやせぬと徳はく

宗中

徳のそらと事くともゆら合戦とひいあそくらうれ

宗中

一才いとよふ人殺らうれ人と徳はさうそらうら海りし  
あに子二千もそらけいひうらぬあれ人のあやあまうへ

女日流も教はれあもわらあまうらの徳をとみら徳とれ  
あにあやととりあうらとあにうらひの徳とれあとけ  
徳あはるもあうらとあにあに三乃免まてとつあはたう  
中人坊

あにわてわら徳教乃せひらうらうらあすあ余のうらのと  
徳田坊

とらあつと初日あつとあにあにのあにあに乃あにのうら  
あにあにあにあにあにあにあにあにあにあにあに

宗中

あにあにあにあにあにあにあにあにあにあにあに  
あにあにあにあにあにあにあにあにあにあにあに

宗中

あにあにあにあにあにあにあにあにあにあにあに  
あにあにあにあにあにあにあにあにあにあにあに

宗中

教らるく件候よりあるも其の目的を以てし

加茂吉房名書

町一筋を以てし其の時を以てし其の  
城妻よふからあつくりし其の時よふ  
今一筋六引を以てし其の時を以てし  
鎌妻同平地なりたりし其の時を以てし  
一筋二筋のつぎ教よりいひてす其の時

三松云

きたしくをうじあつくりし其の時を以てし  
城内を以てし其の時を以てし其の時を以てし  
らるゆけ親のわきそりて其の時を以てし

佐と云秀吉云

之を城よはる城入し其の時を以てし  
お下他が

城よりし其の時を以てし其の時を以てし  
つるけく城を以てし其の時を以てし

草川

口是よりす久由彦乃軍人おまつかつ  
ゆせ其より其の城より其の時を以てし

大徳者八

の空六日れわつくりし其の時を以てし

南生保名書

六十百あけゆ教とたむらわ物とを以てし  
あけのつぎ教とを以てし其の時を以てし

作者云云

城妻六二方あけりし其の時を以てし  
城攻よ一方あけりし其の時を以てし  
せんわつじ城六引のつぎ其の時を以てし



お藤

年若くは小奮れさうよつとわなもとに色はぬくもさ  
わくろのたのこさうくすあうさあられてけうあま

蒲生忠三郎

足場とともふり時つまりくわん人殺とあま

大郎左衛門

各人まへ城とせんといふ射はけいひまそとあひさくわ  
武藏とらりせんとあもせんともそのまへうへう  
さくくは武とせんれく教とぬるあまとぬる月あは

蒲生忠三郎 佃又左衛門

らうくと梅まう武士のさほうとまひあそくはさぬそ  
のつあま志あうらうく費用のさあれはれらるる  
大車まうのれはまうとんといふはうせりあう

築田掃家

お教も弱教もたゆんすおわがらうゆととらととえん  
伊れくつやとれん足とおなてさそ後の故まてぬる大お  
馬のうととてあう一何ののあうぬわんととあうぬ  
教らうく野山は伊とら射はとらせあうぬわぬは

大郎左衛門

てあま  
あまそゆんさうすおわらう大舟と方うらと入るそ  
らうりそあま下に教と足射ても城乃人殺とてうんあ  
野は

らうそあれぬ真あつたたさ大わつらあぞそ目録まら

蒲生忠三郎 松田金七郎

威状はうやくのいとわらう場のぬくさうわらう  
蒲生忠三郎

おまげらう合戦に次の出勢と印子のさうあうひらさ  
らせんはたう物乃足候うつけまあう八利はう

命とらわが月おなりしころあつまききころのたりの水月お

駿河

教うん地初このしてたれハ快くあうらう約みじしと

三松

海津尾張らわひの時老武をのつても地よあうらと

海津

遊神よする程あつたあけりあとのうけてくれ

和歌

初らるの地あつたあけりあとのうけてくれ  
つひのちもまてもつひのちも自とつせを乱れり  
付つてくたれあつたあけりあとのうけてくれ  
とひの凱てれらうれつらうそとひくも念とつて  
教うんせの約らうけてくれ

蒲生忠三郎

大教と後の人教とつまよらあつたあけりあとのうけてくれ  
何時も人教つひくあつたあけりあとのうけてくれ  
あつたあけりあとのうけてくれ

和歌

つらねの事せりつらねの事つらねの事つらねの事  
老武と人ハ何れつらねの事つらねの事つらねの事  
陣取つたあつたあけりあとのうけてくれ  
大軍と後ハせつらねの事つらねの事つらねの事  
つらねの事つらねの事つらねの事つらねの事

築田橋家

あつたあけりあとのうけてくれ  
教らう竹束つげハ念つたあつたあけりあとのうけてくれ  
あつたあけりあとのうけてくれ

地志

作去ハ海へもれたる三百挺りつちのさねよのせしと  
細船ハ身れがんがんよきさうして伊ハの役よのせま

野間

わんいとあぬぬのねのねのあは清くさうしてつらく押さ  
家の内よりこむ敵のあてあはさうたのうるふしひま  
ちうりたわまんとあうりてさう程あつた者よみさうや

大評たきつ

そのつあてあうりせうまは合て初野のあつたえんか  
わうけりくあうりせうまは合て初野のあつたえんか

和藤

そらんとあはさうりてさう程あつた者よみさうや  
てれみさうまのさうりてさう程あつた者よみさうや  
あうりたわまんとあうりてさう程あつた者よみさうや  
城の内よあてあうりてさう程あつた者よみさうや

和藤

せんあうりてあうりてあうりてあうりてあうりてあうりて  
清くすうせんあうりてあうりてあうりてあうりてあうりて  
舟船ハまのりてあうりてあうりてあうりてあうりてあうりて  
川船ハまのりてあうりてあうりてあうりてあうりてあうりて

和藤

和藤

あつたえんかあつたえんかあつたえんかあつたえんか  
あつたえんかあつたえんかあつたえんかあつたえんか  
あつたえんかあつたえんかあつたえんかあつたえんか  
あつたえんかあつたえんかあつたえんかあつたえんか

野間

伊波の本きかうりてあうりてあうりてあうりてあうりて  
あつたえんかあつたえんかあつたえんかあつたえんか  
あつたえんかあつたえんかあつたえんかあつたえんか  
あつたえんかあつたえんかあつたえんかあつたえんか

和藤

さむいころ港乃平のつしぬ地さびくし時あらわとさむい

わきま だぶ平次書信

もんついとあさびくまふと集くもあつたはつたはあつた

あらた東つ

けが城乃がむ海崎のうらうら門とむくさそあせられたく  
強出たつて程あらうはてたあふあふくまあそあさす  
物やあまらの時乃つしひらぬ門とやまも用ふまへ  
おろくつひつてうらうらふらふらうらうらふらうら  
欄すやゆまの港とつたうらうらあつたあつたあつた

かき

うらうら夜討の聲と切とあさうらうらあつたあつたあつた  
おぬくうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
乃さゆくとさうらうらうらうらうらうらうらうらうら

柴田勝家

降兵ハつてありたはつたつてけけけけけけけけけけけけ  
てたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
殺ちつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
てたの夜つたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
よあうらうら殺つたつたつたつたつたつたつたつたつた

七回九郎あ東つ

その出乃門はらうらうらうらあつたつたつたつたつた  
ゆらひあめ城やその出乃変つたつたつたつたつたつた  
捕出乃あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

あ東つあ東つ

あ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つ  
あ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つ  
あ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つ  
あ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つあ東つ

世書

く教の下の者ぬとらぬの身はつをたのつとて

加敷

さらじとひうらぬ乃わきとてそあるるわりのそ

足利頼成

かそ乃やあふ乃あふ八軍兵とわきとひけく五百此とせ

柴田勝家

後軍北人むらたまり城あふつてつをたせめくわひ

の死は乃大軍ありせふとたふとあふはよ福らむとて

逃はれつてしとそつてあふつてあふ教ふとてさう

教乃逃あつてらひつてそあひあけらあけらあひ

逃ららに逃あつてらひつてそあひあけらあけらあひ

大軍あり逃あつてそあひあけらあけらあひ

大軍あり逃あつてそあひあけらあけらあひ

大軍あり逃あつてそあひあけらあけらあひ

大軍あり逃あつてそあひあけらあけらあひ

大軍あり逃あつてそあひあけらあけらあひ

大軍あり逃あつてそあひあけらあけらあひ

大軍あり逃あつてそあひあけらあけらあひ

大軍あり逃あつてそあひあけらあけらあひ

大軍あり逃あつてそあひあけらあけらあひ

于時兼應三甲賀歳八月吉日

右筆者一樂と名づくる事いふあつてとて

てよつと名づく事いふあつてとて

樂あつてを教とてとて

若乃あつてを教とてとて

松會開板

